

第1回 根室市ゼロカーボン計画策定委員会

日時：2024年12月19日（木） 17:00～18:10

会場：根室市役所3回災害対策室（301・302）

出席者	委員	11名（別紙出欠確認票のとおり）
	市	石垣市長、中村市民生活部長 （事務局）白川生活環境課長、中澤環境衛生主査、中川主事 北電総合設計(株)環境調査室 内山室長代理、浜中技師

【会議次第】

1. 挨拶

【石垣市長】

近年、世界各地で猛暑や干ばつ、海水温の上昇など異常気象が頻発しており、日本国内においても、猛暑、ゲリラ豪雨などの異常気象により、生活や社会だけでなく経済にも多くの影響を及ぼしています。

異常気象は、地球温暖化や気候変動が大きく関係しているとされており、世界各国をはじめ、我が国においても、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて、強力に地球温暖化対策を推進している状況にあります。

当市においても令和5年2月、ゼロカーボンシティを表明し、二酸化炭素排出実質ゼロに向けた取り組みを進め、街路灯のLED化などを推進してきたところでありますが、本年度より、地球温暖化推進法に基づく、地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定することといたしました。

本計画は、根室市の自然や社会条件に応じて温室効果ガスの排出抑制を推進する総合的な計画であり、当市の特性と実情を踏まえた計画とする必要があることから、策定には、産業・経済界や関係団体、市民の皆さんの意見が不可欠と考えております。

本日は、計画策定に向けて、当市の現状や市民アンケートの概要について事務局より説明いたしますので、各委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で、今後とも活発なご意見をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本計画の趣旨をご理解いただき、計画の策定に向けてご尽力賜りますようお願い申し上げます、策定委員会開催にあたってのご挨拶といたします。

2. 委員紹介

【事務局より各委員の紹介、委嘱状の授与が行われた】

【出席者は、委員 16 名中 11 名】

3. 委員長、副委員長の選出

【委員長：吉田容広氏（根室金融協会）選出】

【副委員長：寺田裕一氏（根室市観光協会）選出】

3.1. 委員長挨拶

近年、ますます進んでおります地球温暖化現象は、市民生活や地域の経済活動も大きな影響を受けており、根室の基幹産業に深刻な打撃を与えることを危惧しております。

このような状況の原因には、二酸化炭素の排出が関連しているともいわれている中、日本を含めた世界各国が 2050 年の二酸化炭素排出量実質ゼロ、いわゆるゼロカーボンに向けての取組みを進めております。

本年度より、地球温暖化推進法に基づいた、地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定することとなりましたが、ふるさとの未来の為に、我々が協力しながら知恵を出し合いながら、計画の策定に取り組みたいと思います。

簡単ではございますが、委員長就任にあたってのご挨拶といたします。皆様、よろしくお願ひいたします。

4. 資料説明

【事務局から、「根室市ゼロカーボン計画策定委員会について（資料1）」、「根室市地球温暖化対策推進実行計画（区域施策編）の概要（資料2）」、「スケジュールについて（資料3）」についての説明が行われた。】

4.1. 資料2「根室市地球温暖化対策推進実行計画（区域施策編）の概要」への質問と回答

○副委員長

今回は森林、沿岸藻場及び湿地湿原の CO2 吸収量を試算してもう一度整理するというお話でした。この論拠となるのは、温室効果ガス排出量の現状というところになると思いますが、この現状の排出量の算出方法をお教えいただきたいです。また、もし各産業部門のものがあればエビデンスを見てみたいのですが、いかがでしょうか。

△事務局（北電総合設計株式会社）

グラフの数値の算出方法は、例えば、北海道の人口を分母、根室市の人口を分子として案分する考え方になります。各部門によって人口や金額などで使われる数は異なりますが、この案分法が主なものとなります。後日、エビデンスの共有をいたします。各部門がどのくらいの排出量なのか、お示しすることができます。

○副委員長

つまり、北海道全体の排出量を北海道の人口で分母として、根室市の人口を分子として、案分しているということでしょうか。

△事務局（北電総合設計株式会社）

その分子は人口としている部門もありますが、産業部門は製造費出荷額のように金額で案分することもあります。

○副委員長

地域ならではの特色があるので、例えば漁業が多いところ、生産業も多いところその割合でも案分されているというところでしょうか。

△事務局（北電総合設計株式会社）

その通りです。部門・分野、それぞれによって推定方法があり、考え方としては案分しているということです。

○副委員長

私のイメージではこの工場ではどれくらい、このお店ではどれくらい排出しているというのを何かの方法で計測して合計して算出していると考えていましたが、北海道全体として算出してそれを産業ごとや人口で案分しているということで、例えばスーパーマーケットだとすると、スーパーマーケット全体の売り上げを売り場ごとの比率を案分して、来月の売り上げを上げるぞと言っているようなものだと思えてしまいます。つまり、本来は地域ごとに厳密に計測した方が良いですが、それはとても難しいということですね。

△事務局（北電総合設計株式会社）

仰る通りです。副委員長がご示唆いただいた方法は、「積み上げ方」と言いますが、この方法は、全体の情報を掴むことが困難だと判断しています。

○副委員長

すると、案分して出した数値に対して、根室市ならではの森林や湿地で吸収されるであろうと推測される分を引くと、それが根室市の計数ということになるわけですね。

△事務局（北電総合設計株式会社）

そうなります。

5. 意見交換

・市民・中高生・事業所アンケート調査の結果について

○委員長

それでは、本日最後の意見交換ということで進みたいと思います。意見交換につきましては、事務局からテーマが出されています。

先ほど説明いただきました資料の「意識調査結果」について、皆様のご意見を伺いたいと思います。

内容は先ほどご説明いただいた通りですが、これにつきまして、皆様の思うところをご自由にご発言いただきたいのですが、突然言われても厳しいですよ。何か皆様が思うところがあったら挙手いただければと思います。

○N委員

気候変動の関心の程度の結果について、中高生アンケート結果では、意外に「あまり関心がない」及び「わからない」が多いのが驚きでした。

現在の中高生は、ニュース等でたくさん情報に触れることができますし、「冷房器具が無いから授業がなくなった」等で影響を受けていると考えられましたが、「あまり関心がない」及び「わからない」というのは、自分自身にあまり影響がないと思っていると思いました。また、「元を知らないから」という経験の差によるものかもしれませんが、10年以上生きている中高生ならわかると思うので、わからないという事実には驚きました。もう少し環境教育をした方がいいと思いました。

○O委員

高校生である私もアンケートでは、確か「あまり関心がない」、あるいは「わからない」と答えました。たしかに、夏の暑さは強いと感じますが、季節の間のもものばかりに目が行っていて、関心の向きの場所が違ったというか、そのようなところがありました。

○OM委員

私もN委員と同じく、中高生の結果に驚いていました。しかし、自分の中で解釈した結果、私たちは長く生きており、過去を知っているからそれと比較して答えが出せますが、中高生は生まれてから10年は立っているものの、それでもまだ浅いと思いました。私たちは長く生きている分、いろんな知識が備わっているから若い方との結果に差異が生じたと思いました。しかし、何を質問していいかわからないくらい難しい。

○委員長

今お話しされた通りだと私も思います。回答した結果も50～70代が多いため、このような結果になったと思います。

△事務局（北電総合設計株式会社）

しかし、一方で「再エネを導入したい」という考えは市民よりも中高生が多いことが明らかとなっています。

○M 委員

やはり、大人は金銭のことを考えてしまうため、それが第一になってしまうのではないかと思います。若い方は純粋に現在の環境について考えた結果、そうなるのではないかと思います。大人になると、どれだけ経済的に見合うか、支出は大丈夫かを考えてしまいます。

○H 委員

建設業でいうと、燃料は軽油及び重油を使用しています。しかし、現在は省エネ型のような環境に対応した機械は出ています。入れ替えるタイミングは難しいものの、これから導入するものに関しては、環境に配慮した機械を入れる流れになっています。

また、太陽光の導入について「検討しない」というのが83%となっていますが、これは導入するタイミングだと考えられます。いつ導入するのかといった時、家を建てる時や改築する機会ではないと検討するタイミングがないため、このような結果になったと考えられます。

○B 委員

「太陽光以外の再エネを検討するか」という問いの自由回答欄では、地中熱から潮流とありますが、これらは、再エネの方法は根室では可能なのでしょうか。

△事務局（北電総合設計株式会社）

地中熱においてはヒートポンプというものがございまして、新築する場合等に、省エネ施設として導入されています。バイオガスに関しては、家畜の糞尿がある程度あれば可能となります。太陽熱に関しては、北海道内ではあまり実例が少ないですが、可能です。そして、風力及び水素については一般市民では難しいですが、発電事業者の参入による可能性はあると思います。近年小型の風力が開発されるという話もありますが、実際は普及していないのが現状となります。潮流に関しては、実用化されていません。

6. その他

○L 委員

当日、資料をすべて読んで理解するのが難しいので、可能であれば、資料を事前に頂きたいです。

△事務局

次回以降は、ご指摘のとおり事前に御配りするように致します。

以上